



Kanazawa
Traditional
Arts & Crafts

Autumn
2004
Vol.4



金沢で出会った、ベストバイの品々 東京・大阪 百貨店 スタッフの工芸探訪

金沢の伝統的工芸品 加賀友禅／金沢九谷／金沢仏壇／
金沢箔／金沢漆器／加賀織／希少伝統工芸

協同組合 加賀染振興協会

〒920-0932 金沢市小將町8番8号

TEL076-224-5511 FAX076-224-5533

<http://www.kagayuzen.or.jp/>

info@kagayuzen.or.jp

生きとし生けるものの、鮮やかな色を。



柿本 結一作 中振袖「風・衣・波」

風に吹かれ、寄せては返す波のように揺れている衣たち。桜をはじめとした四季の花々を散りばめた大胆な構図と友禅染の繊細な技術との調和が作り上げた美がここにある。

写実的な草花模様を中心とし、優美で落ち着いたデザインが特徴の加賀友禅は、

加賀五彩と呼ばれる五色を基調に染め上げられる。

箔や刺繍などの後加工を施さないことが多く、染め本来の良さを活かした物づくりが特徴である。

※加賀五彩（藍・臙脂・黄土・草・古代紫）

Kaga Yuzen

ふてふて

目次

2004 Autumn Vol.4



特集

金沢で出会った、ベストバイの品々

東京・大阪 百貨店スタッフの 工芸探訪

..... 8

東京の伊勢丹、大阪の阪急から、目利きの鋭い百貨店スタッフが金沢を訪れ、伝統工芸の工房や専門店をたずねる。土地の人たちとの会話の中からも工芸の息吹を感じ取り、自分達の顧客を意識した素晴らしい工芸探訪の旅が始まった。

ステキ・エッセイ

玉村豊男 3

加藤タキ 5

特集

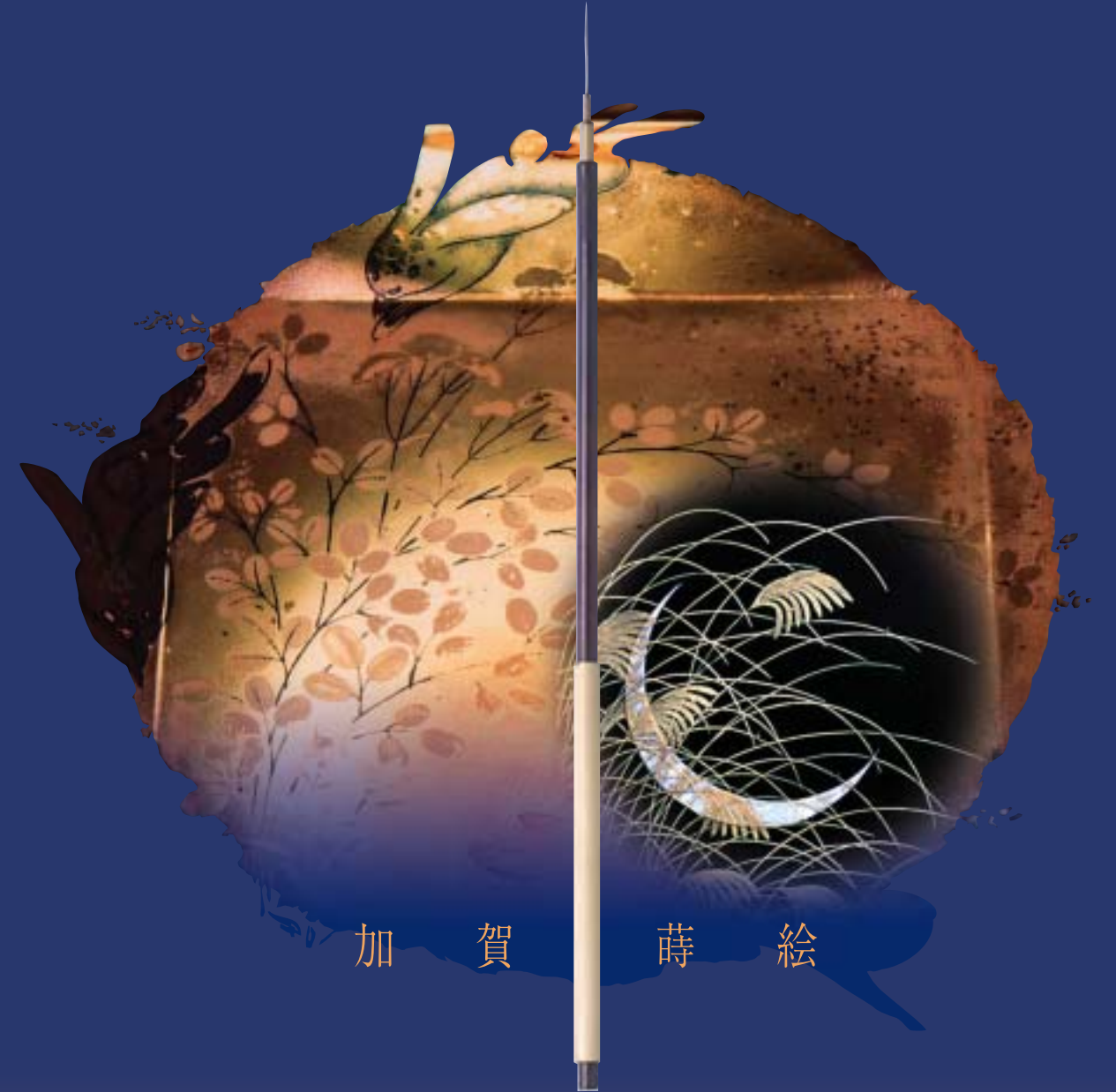
道具拝見

..... 16

道具は手の延長であり、意識の具体的な担い手だ、とは西洋のある哲学者の言葉である。日本の職人にとって道具は、手というより心の一部分であり、命に等しいものとされて来た。工芸の作り手から直裁に道具への思い入れをうかがった。

シヨップガイド&読者プレゼント 18

金沢伝統工芸マップ 20



加賀蒔絵

ステキ

2004 Autumn Vol.4
平成16年9月30日発行

編集・発行／金沢工芸普及推進協会
編集協力／石川県加賀刺繍協同組合・
石川県箔商工業協同組合・金沢九谷
振興協同組合・金沢漆器商工業協同
組合・金沢仏壇商工業協同組合・協
同組合加賀染振興協会
制作／株式会社 金沢倶楽部



金沢は伝統工芸を扱う専門店は数多くあり、そこで働く女性の方々もたくさんいます。日々、勉強の連続だとおっしゃる熱心で若い方も多く、伝統工芸の今日を支える一翼を担っているのです。そんな彼女達の微笑みで、金沢の伝統工芸がとつきにくいものではなく、親しみやすく、気軽に手にとってもらえるものだと思います。

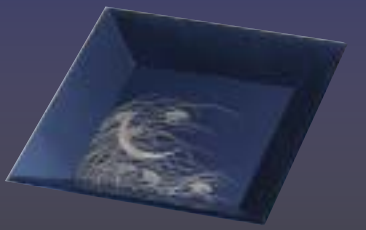


蒔絵秋野四方盆
中野孝一 作

秋草・月・うさぎ

ことさら秋の風情を愛した日本人。
秋の情感が滲むように表現できる蒔絵で
様々に描かれてきました。

昔も・今も



秋草蒔絵四方盆
清瀬一光 作

金沢漆器商工業協同組合

金沢市尾山町 9-13 電話 (076) 263-1154



たまむら・とよお 1945年生まれ。68年パリ大学言語学研究所留学。71年東京大学フランス文学科卒業。通訳、ツアー・コンダクター、翻訳業等を経て文筆業に入る。主な著書に『パリ旅の雄学ノート』、『料理の四面体』『食の地平線』など多数。現在、長野県小県郡東部町に在住。ワイン用ブドウ、西洋野菜等を栽培する『ヴィラデスト ガーデンファームアンドワイナリー』を経営。

絵を描こうと思ってパリの街を歩いたことがある。パリが青春時代を過ごした懐かしい街で、とくに学生街の周辺は目を瞑っても歩けるほど詳しい。が、あらためて風景画の題材を探して画家の目で眺めてみると、慣れた街並みがまた違って見えてきた。パリの建物はどれも似た石造りの集合住宅で、その統一されたデザインが美しい景観を生み出している。そう、多くの人が感じているし、私自身もその通りだと思ってきた。雑多な建物が混在する日本と較べて、整然とした美しさはパリならではのものである。

しかし、いざ絵を描こうと思って建物の前に立ち、細部に目をやりながらスケッチをはじめると、どれも同じように見えていた建物に、実は無限に異なるさまざまな意匠をもっていることに気づかされた。隣の部屋と微妙に違う、窓の手摺りの紋様。繰り返される石の飾り模様が、ある箇所だけ途切れて別のものになっている。そして階の途中から突然出て直下の舗道まで壁を走っている排水ダクト。曲がりくねって石壁を這う電話の配管。どれも、百年前から住み続けてきた歴代の住人たちが、必要に迫られて改装した名残りである。それらが、いわば累積した記録となって目に見える歴史を綴っている。



パリの統一された景観の魅力というのは、実はその細部の多様な相違にこそ支えられていたのである。そしてその相違の豊かさは、この街を住み継いだ名もない市民の生活の痕跡が作りあげた、巧まざる合作にはかならないのだ。その証拠に、昔の様式を真似てつくった再開発地域の新しい建物は変化なく統一されていて、のっぺりとした無機物のように感じられてならなかった。

私は、パリの街を歩きながら、伝統工芸というものについて考えていた。芸術の名のもとにあらからさまに個性を解放するのではなく、つとめてストイックに自分を出すことを控え、無名性の中に埋没することを願いながらも、どうしようもなくその人だけがもつ手の技が作品にあらわれてしまふ、職人たちの仕事。たとえ請負いで同じような物を繰り返しつくっている

エッセイスト、画家、農園主、ワイナリー・オーナー

玉村 豊男 Toyoo Tamamura

累積する美意識

ステキ・エッセイ

箔の可能性、今そこに。



石川県立音楽堂



金沢市アートホール



ITビジネスプラザ武蔵

石川県箔商工業協同組合

〒920-3122 金沢市福久町口172
TEL 076-257-5572 FAX 076-257-5583

一本の糸から生まれる美の小宇宙。



掛け軸



クッション



ハンドバッグ



お茶数寄袋、付け下げ着物



屏風

石川県加賀刺繍協同組合

〒921-8015 金沢市東力二丁目一三〇
☎076-291-5150 FAX076-291-5198

ステキ・エッセイ

「モノ」の背後にいつも「人」を感じて。
新しい可能性を広げましょう。

加藤タキ

Taki Katoh



かとう・たき 1945年生まれ。外国雑誌のリサーチャーや音楽事務所役員等を経て、ショウビジネス・コーディネーターとして独立。オードリー・ヘップバーンやソフィア・ローレンらの日本におけるCM出演等に携わる。現在は講演、著述、メディアへの出演など多方面で活躍。01年に104歳で亡くなった母・加藤シヅエの思想を伝えていくことも使命だとしている。

私 の行動の原動力は好奇心。よって様々な仕事を引き受けています。昨年、東京ドームテールウェアフェスティバルに参加させていただいたのもその一つでした。何にでも興味があるとはいえ、テールウェアはあまりに専門外。始めはお断りしようと思いました。しかし、「生活人として考える食空間なら…」という私の一言に、それこそ我々が求めていることだとおっしゃるプロデューサーの熱意に動かされてお引き受けすることに。

「もし私が一人暮らしだったら」というテーマを設け、心地よい時間が流れる空間、親しい友人をお茶に招いて好きな器でもてなす空間を提案しました。テーブルセッティングよりも「人」を主人公にした私なりのアプローチは多くの方に共感いただけたようです。どんなときでもセレクトすると

きのポイントは「人」。やはり持つていけるだけ、飾っておくだけでは何か淋しいですね。提案の影響をうかがいながら、今は自分なりの美意識で生活全体をプロデュースなさる方が多くなっているんだなと実感しました。作り手の皆さんにも、ニーズにお

もねるという意味でなく、この商品、この作品の向こう側にいる“現在”を生きたる「人」を思い描きながら製作なさることを期待したいですね。その意味ではルイ・ヴィトンしかり、海外の老舗ブランドは一步先んじている気がします。この食空間提案がきっかけになり、来春、箱根・強羅にオープンするリゾートホテルの和食・イタリアンのテーブルコーディネートを手がけることになりました。やはり「人」・ゲストの気持を軸に据えた提案で進めています。難問が多い中、ホテル側のボスから「できないと決めてしまうのではなく、どうすれば実現できるかを考えよ

特集 東京・大阪百貨店スタッフの 工芸探訪

阪急



うめだ店催事計画部長
薬師寺雅文さん(51歳)

やくしじ・まさふみ 1972年入社。外商部を振り出しに、百貨店人生が始まる。以来十年間、特に行動力と情報収集力を養い、2001年より現職。阪急梅田の催事を取り仕切る。その「加賀百万石の味と技」展を手がけてから、金沢の工芸や食文化の研究・開発に余念がなく、何度も金沢を訪れている。

伊勢丹



MD統括部 支店催事部
物産展商品担当マネージャー
平野健二さん(55歳)

ひらの・けんじ 1968年入社。本店理具売場、販売催事部、家庭用品部セルマネージャーなどを経て、85年より和洋食器のバイヤーを歴任。オリジナルコンセプトショップを担当する。2003年より現職。新規催事の構築と工芸品担当バイヤーのアドバイザーを務める。

ツプの 訪

工芸王国金沢には、数多の工芸の店がある。今回は有名百貨店よりおふた方を招聘して、実際に扱いたいと思う品を求めて工芸探訪に出かけた。実際に触れて得た、工芸の真髄。両氏お墨付きの金沢工芸の数々をご紹介します。

KANAZAWA BUTSUDAN

莊嚴華麗

真宗王国・加賀の地に育ち、室町文化を発祥とする伝統技術を受け継ぐ金沢仏壇。上品な独自の美しさを持つ木彫りに、高度な蒔絵技術と絢爛たる金箔が見事な調和を見せる。祖先に思いをはせ、心の安らぎを取り戻し、自分に語りかける見事な道具立て、金沢仏壇。現代生活に適した新しいデザインのものも、伝統技術を基礎にして登場しています。



五角形型 新型ミニ仏壇



金沢仏壇 大賀三号

金沢仏壇の伝統的技法は、江戸末期の加賀藩細工所にいた職人が明治になつて町職人になり、彼らの手によつて流布されたものです。丸粉を使用した堅牢な蒔絵技法や加賀繁華が見られ、彫刻は写実的で繊細な仕上がります。これら技法の復刻と後継者育成の観点で組合として制作をしたのが大賀シリーズであり、今年度は改良を重ねた三号を世に出しました。

七〇代からくり仏壇

大賀シリーズをベースに金沢が生んだからくり人形師大野弁吉の作った仏壇彫刻を参照し、総丸粉仕上げ蒔絵の「からくり仏壇」を制作。金沢仏壇の原型のデザインや浄土真宗以外の宗派のシンプルなデザイン、江戸・明治期に運ばれてきた県外産地の仏壇のデザインなどを研究し、現代的なデザインに仕上げました。現代生活に適したサイズのミニ仏壇(多目的回転仏壇)と七〇代仏壇がといます。

七〇代 金沢仏壇



金沢仏壇商工業協同組合

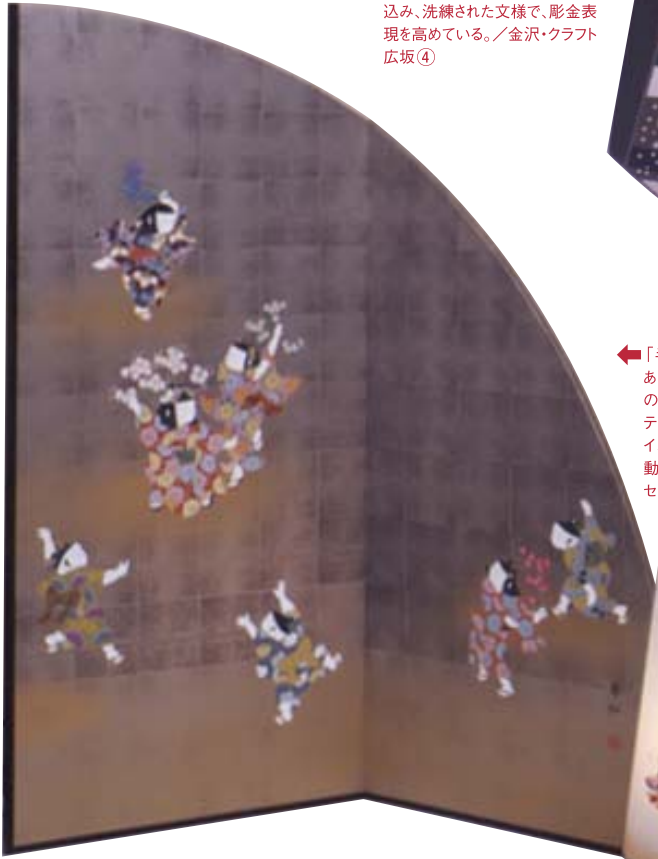
〒920-0855 金沢市武蔵町8-2 瀬沢ビル3F TEL076-223-4914 FAX076-232-6714 <http://kanazawa-butsudan.or.jp/> info@kanazawa-butsudan.or.jp

金沢で出会った、ベストバイの品々

➡「加賀象嵌・器」先ごろ人間国宝に認定された中川衛氏の作品。金工品の表面に金や銀を埋め込み、洗練された文様で、彫金表現を高めている。／金沢・クラフト広坂④



◀「半円屏風ーわらべ図」「わらべあかり」屏風は銀箔をいぶした箔の醍醐味が楽しめる伝統的アイテムだが、現代の和室に合うデザイン性とわらべたちの可愛い動きのモチーフが調和。あかりもセットで楽しめる。／箔一⑤



➡「酒器セットー彩華」ガラスに銀箔をぜいたくに焼きつけ、ガラスの持つしなやかさと箔の持つ豪華さが高い次元で融合している。／箔一⑥



➡「箔布竹柄三間あじろロングバッグ」「箔布市松唐編み小判バッグ」布に箔を付着させる技術は高度なもので、抜き柄を付ける技術は箔一ならではのオリジナル。茶会席などでも使えるような和風のバッグに活かした。／箔一⑦



↑「桐工芸・花器」湿気や熱に強い桐を生かして作った花器。モチーフのうさぎは物事が前に進むことを表わしている。／上坂⑧



↑「壺」加賀百万石にふさわしい生き生きとした参勤交代の図をあしらった大きな壺である。写実的で精緻な絵は金沢九谷の特徴のひとつである。／片岡光山堂⑨



『上坂』にて飾板を眺める平野さん。「兎が愛らしいですね」と一言。

秋といえば中秋の名月、月といえば兎。玄関に飾って、その前にスキとか季節の花をちよつと置いて。お客さんを迎えるしつらえとしてもお洒落ですよ。こんな風に歳時記を愉しんでみてはと思うのです」

工芸品をみる時、いかに生活のシーンに取り入れられるかを考えるという。季節感の演出に役かってくるのも魅力の一つだ。物産展での品揃えにも、このような視点は欠かせない、と話す。



兼六園そばの名園「玉泉園」の茶室にてお茶をいただく。茶の湯の盛んな金沢でのもてなしから探訪が始まる。

高い質と美しさを兼ね備えた、金沢の伝統工芸。首都圏でも金沢ブランドが確立している。

伊勢丹MD統括部支店催事部 物産展商品担当マネージャー 平野健二さん

平野健二さんは『伊勢丹』で、全国各地の物産展を企画・運営するマネージャーを務める。同百貨店は、明治期の創業より時代の流れを敏感に感じ取り、独自の商品提案をしてきた老舗。その心意気は今日も弛むことなく、衣食住に互いフレッシュな感性でクオリティーの高い提案を続ける。氏は、「特選和食器」のバイヤーとして経験を積んだこともあり、



↑「煎茶器・花結文椿山窯」精緻な筆運びによる花模様は、金沢九谷の特徴のひとつで、金と赤の配色が絢爛さをもし出す。／諸江屋③

「金沢にも何度も来ましたよ。ほんとに工芸に恵まれた土地だと思います。九谷焼、加賀友禪、金沢漆器などを筆頭に、いわゆる『金沢ブランド』が確立されていますよね」。紺屋坂を歩きながらこう話す平野さんの工芸めぐりは、兼六園下からスタートした。

一軒目は桐工芸を扱う『上坂』。金沢の桐工芸は、繊細で優美な加賀蒔絵が気品を添える。同店には、木目、軽さ、そして湿気や熱に強いという桐の特性を活かしたさまざまな調度品が並ぶが、その中で平野さんが目をとめたのは、兎の蒔絵を施した飾板。

「秋のインテリアにぴったりです。

金沢で出会った、ベストバイの品々



↓「菊華文金粒徳利」実に緻密で入念な仕事を感じさせる出来栄え。金沢九谷の技術的水準の高さを示している。質感も素晴らしい、飾って愛でたい一品である。／長寿堂⑮

↑「金欄手鉄仙文香合」存在感のある品のよさと緻密な描写があいまって、高い質感を出している。眺めるほどに、使うほどに愛着が湧いて来そうな出来である。／長寿堂⑯



←「九谷焼・ピアカップ」金沢の女性作家萌春氏の作品。日展にも出展し、今後の活躍に期待が集まる注目株。女性らしい色味と金のあしらいが特徴的。／鏡木商舗⑰



武蔵の九谷焼老舗『鏡木商舗』。数々の古九谷に目を輝かせ、当時の斬新な意匠に感嘆の声を漏らす。

モノづくりです」

いう。「どうしてあれほど豊かな発想力を持ち得たのか、つくづく感心します。昔のいいものは、今見ても粹です」。明治、大正期の九谷を復刻した品々を前に、興味津々であった。

単県で物産展を行えるところが少なくなっている中で、金沢はそれが可能だ。「百万石文化」を背景に、一般消費者の期待値も決して低くはない。「でも」と氏。

「これからの工芸に必要なのは既成概念に囚われない、現代のエンドユーザーをしっかりと意識した

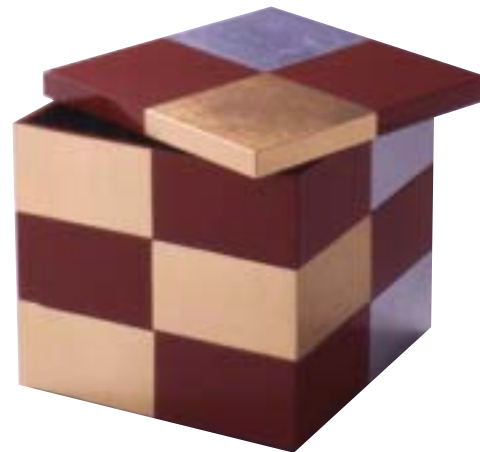
金沢には脈々と続いてきた、確立された工芸が幾つもある。「伝統工芸王国」と称されるゆえんだ。工芸どころとして肝要な、この「個性と総合力」をさらなる力とするためには、新たなステージへ踏み出さねばならない、と平野さんは言う。それは現代のライフスタイル、時流を見据えたモノづくり。試みが開花したとき、金沢の工芸はいっそうの輝きを放つに違いない。

『池田大佛堂』では、職人の手による装飾の彫刻の様子を見学した。



↑「大皿」九谷の絵柄の中で花の大輪を描くものはそう多くない。しかも限られた色を用いて、花の表情を表現するのはたやすいことではないのだが、挑戦的な品と言える。／野村右衛門堂⑱

『田じま』では、箔商品の多彩さに目を見張る。「どう使おうか、思いを巡らせるのも楽しいですね。」



↑「五寸角市松三段重」漆器と箔の整合は伝統工芸の産物であるが、近年、デザイン志向が高まり、重箱でもこのようにお洒落なものが続々登場している。／田じま⑲



↑「祝い樽、金杯」お祝いごとに欠かせない品物だから、金箔を思い切ってあしらひ、豪華さを出す。小さなサイズにしてあるところがほんのいいバランスをみせている。／田じま⑳



「加賀友禅伝統産業会館」にて、職人による手描き友禅の実演を目にする。



緑滴る「玉泉園」の中庭を散策する。探訪の疲れも癒された様子。



↑「大樋焼・大樋釉掛分茶皿」大樋年雄作。釉が醸す柔らかい光を放つ釉色。多くの茶人から愛されている。／大樋長左衛門窯㉑



次に立ち寄ったのは、『加賀友禅伝統産業会館』。手描き友禅の実演を行っており、職人の仕事ぶりにしばし見入る一コマも。とりわけ感嘆の声を漏らしたのは重要無形文化財保持者、木村雨山の作品の前に立った時だ。

「何とモダンで格好いいデザインだろう」と呟き、「評価をされる人というのはその時代、その時代で最先端であったのだと思います。常にクリエイティブでなければ、先はない」と続ける。

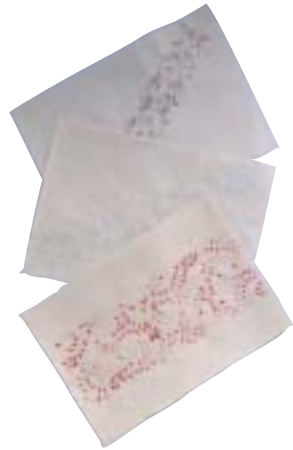
伝統の技法はもちろん大切な。しかし、形式守ることに固執しては、先は拓けない。伝統技法から外れなければ、色や形といった意匠には独自性を出していくべきであるし、そうでなければ工芸は続いてはいかないということだ。

先人の艶やかな作品への感動も冷めやらぬまま、隣接する『西田家庭園 玉泉園』へ。七二〇坪ある池泉回遊式の庭園内を散策し、裏千家にある茶室「寒雲亭」の写しの席に入り、大樋焼の茶碗で一服。茶の湯が盛んな金沢らしいもてなしに、すっかり癒されたよう。

続いては東別院近くの「池田大佛堂」。木地、塗り、蒔絵、彫刻、箔。「金沢仏壇はまさに伝統工芸の集大成」と、施された一つひとつの技を丁寧に眺める。「初めて見た時は、随分と驚いたものですよ」と、初見の時の感慨を新たにしているようでもあった。

金箔工芸の『田じま』では、箔に彩られた品々をあれこれと手にし、使い途を思い描く。「近頃は絵手紙を嗜む人が多いですから、自分の描いたものをしまっておけるような、丁度いいサイズの箱物があったらいいですね」と、バイヤー時代を彷彿とさせる発言も。最後に九谷焼の『鏡木商舗』を訪れた。数ある工芸の中で、何しろ九谷焼、特に古九谷が好きだと

金沢で出会った、ベストバイの品々



↑「厚楮紙・刷毛引」最近人気の透き模様紙や、型染め紙などの美しい和紙。ランチョンマットや敷布などアイデア次第で汎用性が広がる。／金沢・クラフト広坂

↓「箔工芸・グログランバッグ墨一箱型」モダンなデザインに箔本来の上品な輝きをうまくマッチングさせた。和洋、今昔の垣根を越えた作品といってよい。／箔座 ひかり蔵



↑「箔工芸・バングル、ブローチ2種、チョーカー」箔座オリジナルのプラチナ箔やシルバーなどをあしらったアクセサリ類。主張しすぎない輝きは箔ならではの。／箔座 ひかり蔵



↑「蛇の目傘」今では、金沢和傘を作る人は、松田弘氏(松田和傘店)のみ。和傘は丁寧に作られた堅固さと図案の優美さが特徴。／金沢・クラフト広坂



↑「竹工芸・鳳尾竹花籠」橋本仙雪作の銘結。手づくり的な要素を残す、竹の素朴で優れた特質が見直されている。／金沢・クラフト広坂



↑「加賀刺繍・花桜バッグ」絹糸の微妙な色の組み合わせが見事にしだれ桜の優雅でたおやかな姿を表した。組み紐になった持ち手が華やさを添える。／蘭鳥



←「銭箱」木目の微妙な美しさや木肌の風合いを活かしつつ、そこに箔で思い切ったデザインをほどこしてある。立方体で、流れを感じさせるデザインは巧みに出来上がっている。／さくだ



↑「加賀刺繍・かんざし桜、いちよう」春夏秋冬をモチーフにしたかんざしのシリーズから春と秋をセレクト。和装のみならず洋装にもよく合う一品である。／蘭鳥



←「櫻行灯」和のインテリア小物は静かな人気で、様々な試みがなされているが、これもその一つ。和紙に箔をほどこし、中からこぼれる光に金色が入るのが特徴。／さくだ



『箔座 ひかり蔵』にて箔うつしの実演を見る。



まずは東山『蟹屋』にて昼食をとる。金沢独特の町家建築についてじかに説明を受ける。木虫籠(きもちこ)や土蔵には、茶屋特有の情緒が漂う。



続いて町並みを散策する。「この通りを歩くと、金沢にきたという気になります」。



↑「加賀刺繍・貝合せ一雪持椿」絹糸や金糸、銀糸で立体感あふれる図柄を浮かび上がらせるのが特徴で、丹精に作られる。／蘭鳥

薬 師寺雅文さんが、「阪急百貨店」の催事部長を務めて三年になる。阪急百貨店は、「おしゃれな暮らしぶりの生活者にフィットする」というストアポリシーで、時流に沿った感度の高い商品を提案する百貨店。分けても大阪・うめだ本店は西日本一の売り上げを誇る人気店である。その売り上げを大きく左右するのが催事場であり、氏は催事の年間の運営を総括する立場にある。催事は週替わり。年間約五十二週分にもなる企画をすべからず成功へと導く手腕は並大抵ではない。「物産展が成功する土地には共通

点があります。文化が根付いているか、食が豊かであるかのいずれかです。金沢にはそのどちらもある。魅力は尽きないですね」 同店では、毎年一月下旬に「加賀百万石の美味と美技」展を開催する。通年でも金沢展の人気は群を抜き、昨年は催事の中でもナンバーワンの集客数だったという。二十周年を迎える来年は、より高いハードルを自身に課した。客の期待を肌で感じ、何を仕掛けようかと、思案に暮れる毎日である。 工芸めぐりを始める前に、まずは東山の『蟹屋』にて昼食をいただく。四季の恵みを封じ込めた箱膳は、氏の舌と目を喜ばせたよう。店を出て、通りを歩きながら、「大阪の食べ物最高だという自負があります。しかし金沢料理の独特の繊細さを認めないわけにはいきません。技の細やかさというのは工芸の作風にも通じるものがあるように思います」と語る。 箔などはその象徴ではないか、と言って足を止めたのは『箔座・ひかり蔵』。金沢は生産量日本一

金沢の豊かな食生活や文化が伝統工芸と密接に関わっている。様子がよく理解でき、うれしい。

阪急百貨店 大阪・うめだ本店 梅田店催事計画部長 薬師寺雅文さん

金沢で出会った、ベストバイの品々



➡「本金糸打敷」仏壇の前方にかける打敷だが、加賀刺繍の伝統の技で作られていて、それに箔を張って糸のようにしてある緻密なもの。／今井金箔



↓「漆器・重箱—朱蘭 三段重」ごくさりげなく描かれた蘭のモチーフが朱塗りの重に映える。盛り付ければ、いつもの料理も華やかに。／能作



↑「花いけ」九谷焼にじかに金箔をあしらひ、存在感を放っている。九谷でもオブジェに近い斬新な造作で、それに抽象的な箔のデザインを配してある。／今井金箔



←「九谷焼・壺—青木木米 写し」仁清、乾山と並び三名陶の一人木米の写し。全面に洪い赤を施し、人物を主体として五彩を書き込む絵柄が特徴。／北山堂



➡「花瓶」動物を写実的にあしらうのは、九谷焼の特徴だが、曲面に羽を広げた鶴の大きな動きを描いて、まとまりを見せている構図がいい。／矢木源山堂

←「漆器・茶器—溜小紋雪吹」加賀百万石を象徴する梅鉢を幾何模様にしてあしらった。このような格子や亀甲の組み合わせを、蜀光文という。／能作



➡「九谷焼・置物—金魚」おどけた表情の金魚。まるで生きているかのような、しなやかな動きは陶器とは思えない出来映え。／北山堂



↑「二侯和紙・友禅・扇子—金沢の彩〜ふたつの流れ」二侯和紙と友禅。二人の作家のコラボレートによって生まれた扇子。工芸の可能性を広げる作品である。／金沢・クラフト広坂



↓「加賀毛針・もめん糸りしめ」目細八郎兵衛商店の縫針。布目にすんなりと通るので、縫いやすいと評判。／金沢・クラフト広坂※後ろは参考商品。針刺し



↑「硯箱・花丸蒔絵」軽くて丈夫な堅固さを持っているのに、光沢の角度では、滑らかにさえ見える仕上げのよさ。シンプルな蒔絵を与えられた空間にほどよくあしらっている。／石田漆器店



←「富貴漆四方盆・桐箔桐」家紋を底にあしらった角皿であるが、木目の美しさと素朴さを活かして漆仕上げをしてあり、実用性の中にも品を漂わせている。／石田漆器店



↑「加賀水引・香雅」岡本昌子氏の作。伝統の水引を現代の生活になじむように姿を変えた。愛らしい形の香袋。／金沢・クラフト広坂



『金沢・クラフト広坂』では、数々の希少伝統工芸に触れた。

『能作』の3階で、茶道具を見る。「すごい、の一言に尽きますね」。



という箔処であり、箔を活かした金沢仏壇や漆器などの工芸も盛んである。ここで氏の関心を引いたのは箔うつしの実演。極薄く打ち付けた箔を箔箸で掬い取り、息を吹きかけて伸ばし、また箸で伸ばす。そして木枠に押し当てサイズを均等に揃えて紙にうつす。職人のイメージにはほど遠い、若い女性による作業である。その様子を眺めては、「これからの人たちに伝統工芸を啓蒙するには、その分野に携わる若い方から発信されるほうが浸透しそうですね」と感心する。

次

に向った先は『蘭島』。葎ヶ浦悦子氏が主宰する加賀繡の店である。加賀繡は立体感と加賀友禅のぼかしにも似た淡く雅な色彩が特徴。一針一針丁寧に刺した意匠から、手仕事の温もりが伝わる。

「このような下支えの地道な仕事があつてこそ、私たちが商売ができる。それをもっと改めて感謝の念が湧いてきますね」

藩政時代から継承されてきた加賀繡や加賀象嵌、加賀毛針など、希少伝統工芸品を一堂に集め、その魅力を発信するのが『金沢・クラフト広坂』である。同店で氏は、未見の工芸に目を輝かせた。例えば、二侯和紙に友禅作家が意匠を描いた扇。「ジャンルを越えたコラボレーションは工芸の新しい可能性に繋がる。それが単なる挑戦に終わらず、実際に日々の暮らしの中に取り入れられるものとして仕上がっているところが面白い」と言い、続けて「おいくらですか」と一言。氏の発言には、まだ世間に知られていないものを消費者に伝えたいという情熱が迸る。

続いて漆器の『能作』へ。一階では日用使いの漆器を、二階では伝統的な金沢漆器を、そして三階では茶道具を見る。茶器を手に取り、その精緻な技を食い入るように見つめ、「見れば見るほどに、気の遠くなるような精緻な技に気づかされます」と、感嘆の声を漏らす。

工芸めぐりの締めは『北山堂』。五彩鮮やかな九谷焼がずらりと並ぶ店内で氏が目に留めたのは、九谷焼きの祖、青木木米の写し。独特の赤と現代作家の作品の色彩を



『北山堂』で、中田明守氏の作品を手にする。「女性が使いやすいサイズですね」。

客満足の一言に尽きる。

「発信する側の自己満足であってはいらないと思うんです」

使い手と作り手。双方からの視点を持ち、その上で溢れる思いを形に託す。それはものの作りの原点でもあるだろう。

道具 拝見

職人が日々使う道具から
積み重ねられた技を知る

筆

絵付け筆

「形に合わせて、筆の種類に
配慮することが大切です」

九谷焼 ■ 松本佐一氏



筆は主にイタチの毛が使われる。京都は稲本のものがよい、と氏。

九

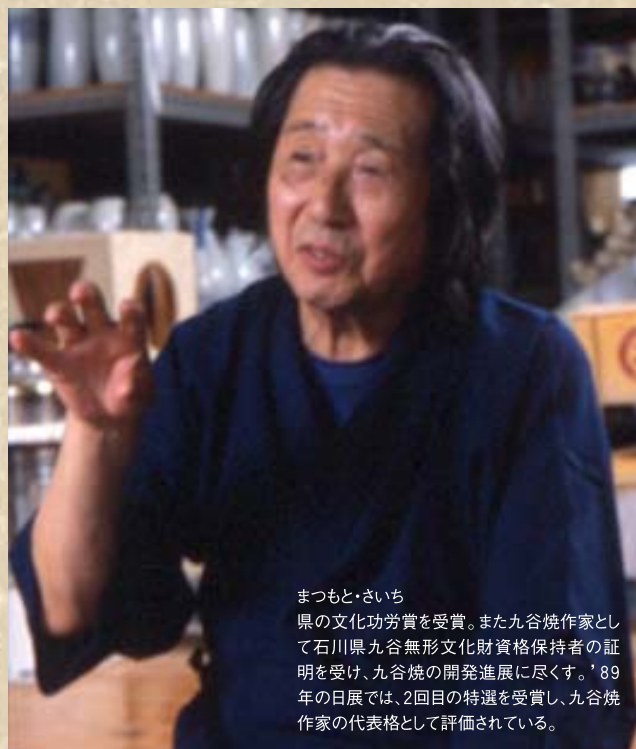
谷焼の工程で筆を使用するのは染付けと絵付けである。ことに絵付けは九谷焼のすべてとも言われており、事実、図案が印象に残るものは多い。松本佐一氏の作品であれば、ずっと引かれた一本の線にすら、生命のダイナミズムを感じるといった具合に。ところが氏にこだわりを聞くと、さほどない、という。「要は形に相應しい絵付けをするだけだ」と言い、むしろ筆の種類や組み合わせを選ぶことに配慮するという。九谷焼は分業が基本。土選びから焼成までの工程を専門家が担当する。窯元の家に生まれた氏は当初釉薬の勉強を命じられる。修行

先で異業種の若き担い手たちと出会ひ、彼らと切磋琢磨する中で、自然と土や焼きの知識が増えていった。いつしか「作業人として終わりたくない」との思いが芽生え、それは後に作家への転身を決意させるきっかけに。伝統に敬意を払いつつ、後追いはしたくないと感じた氏は自己の世界を確立するために創造を続けた。

その結果、形も色彩も文様も何かに囚われることのない斬新な作品を生み続けることになる。九谷焼きの世界では異才と称されることもある。「異端で結構」と笑ひ、ダイナミックに線を引く。次なる夢を朗々と語りながら。



作品には個性と創造性が反映されていることが大切だという。



まつもと・さいち
県の文化功労賞を受賞。また九谷焼作家として石川県九谷無形文化財資格保持者の証明を受け、九谷焼の開発進展に尽くす。'89年の日展では、2回目の特選を受賞し、九谷焼作家の代表格として評価されている。

蒔絵筆

「蒔絵にとって、筆は命です。
微妙な差が作品を左右します」

加賀蒔絵 ■ 西村優氏



「漆は世の中で一番細い線が描ける素材なんですよ」。

伝

伝統的な加賀蒔絵の作風を継承する西村松逸氏の血を受け継ぐ西村優氏。朝な夕な作業に没頭する父の背中を見ながら、ものの作りへの真摯な姿勢を感じて育った。伝統の意匠に学ぶところは多く、精密な筆致、熟練の技巧には感服するばかりだという。しかし一方で「心を掴まれるのは技に拠らない、思いが溢れた作品ですね」とも。

蒔絵筆の特徴は毛先。水毛と呼ばれるそれは、しなやかでコシがあり、たつぷりと漆を含み、自分で分量を調節できる。すべては細く、長い線のためである。「使いやすくなってくる筆、相性がいいなと感じる筆、いろいろありますよ」。気持のよい筆で鷹揚さを残した作品も作りたい。相棒探しはこれからも続く。

片羽筆

「加賀友禅独特のぼかしは、
斜めの筆先から生まれます」

加賀友禅 ■ 鶴見保次氏



「塗る部分、ぼかす部分。図案に応じて、筆を替えます」。

花

は香り、鳥は羽を広げて空を舞う。風は土に風紋を作り、月は細い光で闇を照らす。友禅作家、鶴見保次氏の手から染め出される絵模様は図案の枠を超えた写実性が信条。絹の上には大自然の美しさがそのままに表れている。図案から完成にいたるまでの長い期間、気分を高め、一定の緊張感を保つことが肝要だというが、言葉とは裏腹に楽しげに工程を進めていく氏。

「友禅の命はぼかしです」。そう言って取り出したのは片羽と呼ばれる筆。斜めの切り口を生かして、丁寧な、そしてリズムミカルに筆を動かしていく。

纏う前には絵羽模様の鑑賞を。ぼかしが季節の音や香りをも描いていることに気づくはずである。

つるみ・やすじ
鶴見太吉郎の孫として生まれる。日本画家の下村正一教授に師事。'76年に金沢市工芸展に初入選して以来、受賞多数。現在、日展会員、日本現代工芸美術家協会会員、石川県美術文化協会評議審査員、加賀染振興協会理事を務める。



金沢伝統工芸ショップガイド

掲載商品取り扱い店

加賀友禅	住所・電話	ホームページ(URL)・Eメール(e-mail) アドレス	営業時間	定休日	写真番号
(協)加賀染振興協会	〒920-0932 金沢市小將町8-8 ☎076-224-5511	http://www.kagayuzen.or.jp/ e-mail:info@kagayuzen.or.jp	9:00～17:00	水曜日	
金沢九谷					
片岡光山堂	〒920-0936 金沢市兼六町2-1 ☎076-221-1291				⑨
鐔木商舗	〒920-0855 金沢市武蔵町1-13 ☎076-221-6666	http://www.kaburaki.jp/ E-mail:kaburaki@basil.ocn.ne.jp	月～土9:00～22:00(祭日含)、 日曜日10:00～18:00	元旦のみ	⑰⑱
九谷巴商会	〒920-0936 金沢市兼六町2-13 ☎076-231-0474		10:00～18:00	無休	
九谷焼 長寿堂	〒920-0961 金沢市香林坊2-4-5 ☎076-221-1822	http://www.chojudo.com/ E-mail:honten@chojudo.com	10:00～19:00	水曜日	⑮⑯
九谷焼 諸江屋	〒920-0981 金沢市片町1-3-22 ☎076-263-7331	http://www.moroeya.com/ E-mail:kutani@moroeya.com			③
黒龍堂	〒920-0853 金沢市本町1-5-3 3F ☎076-221-2039	http://www.kokuryudo.com/	9:00～20:00	火曜日	
順風堂	〒920-0904 金沢市下近江町40 ☎076-231-2700				
野村右衛門堂	〒920-0936 金沢市兼六町2-3 ☎076-231-5234				①⑫
北山堂	〒920-0962 金沢市広坂1-2-33 ☎076-231-5288	http://www.hokusando.co.jp/ E-mail:office@hokusando.co.jp		水曜日	⑳㉔
矢木源山堂	〒920-0962 金沢市広坂1-2-36 ☎076-231-6511	http://www.rakuten.co.jp/genzando/ E-mail:genzando@cronos.ocn.ne.jp			㉖
金沢仏壇					
(株)池田大佛堂	〒920-0854 金沢市安江5-7 ☎076-222-5550	http://www.kaga-noto.or.jp/ Noren01/index1.html			
池田仏壇店	〒920-0855 金沢市武蔵5-38 ☎076-231-5665				
丕今村仏壇店	〒921-8055 金沢市西金沢新町178-1 ☎076-249-1366				
卯野屋仏壇店	〒20-0854 金沢市安江町15-44 ☎076-263-9570	E-mail:nobuhikouno@ezweb.ne.jp	9:30～18:30	毎週火曜日 (正月休み等有)	
金沢仏壇商工業協同組合	〒920-0855 金沢市武蔵町8-2 ☎076-223-4914	http://kanazawa-butsudan.or.jp/ E-mail:info@kanazawa-butsudan.or.jp			
北村仏壇店	〒921-8851 野々市町本町5-4-7 ☎076-248-3362				
(株)澤田仏壇店	〒920-0854 金沢市安江町3-15 ☎076-221-2212				
(株)清水仏壇店	〒920-0968 金沢市幸町6-5 ☎076-222-2861				
㊦竹村仏壇店	〒921-8031 金沢市野町2-6-3(野町駅前) ☎076-241-6778	http://takemura.ftw.jp/ E-mail:f6intake@amber.plala.or.jp			
中村仏壇店	〒920-0851 金沢市笠市町1-14 ☎076-231-5073				
㊧塗師岡仏壇店	〒920-0843 金沢市森山2-1-29 ☎076-253-2201				
㊨塗師岡仏壇店	〒921-8031 金沢市野町1-2-36 ☎076-241-0795				
はやし仏壇店	〒921-8033 金沢市寺町5-5-17 ☎076-241-8690				

三島仏壇	〒920-0862 金沢市芳斉2-4-2 ☎076-221-8015				
森田仏壇店	〒921-8031 金沢市野町3-2-28 ☎076-241-1375		8:00～20:00	不定	
(有)山田仏具店	〒920-0854 金沢市安江町13-32 ☎076-221-2306	http://yamadabutsuguten.co.jp/ E-mail:info@yamadabutsuguten.co.jp	9:00～19:00	毎週火曜日	
柚森仏壇店	〒921-8033 金沢市寺町2-11-40 ☎076-241-4571				
(株)米永仏壇	〒920-0058 金沢市示野中町1-10 ☎076-221-1930	http://w2223.nsk.ne.jp/~yonenaga/			

金沢金箔					
(株)今井金箔	〒920-0968 金沢市幸町7-3 ☎076-223-8989	http://www.kinpaku.co.jp/			㉟㊱
かなざわカタニ	〒920-0902 金沢市尾張町2-16-80 ☎076-263-6111	http://www.k-katani.com/top.html	平日8:45～17:15 土日祝9:00～17:00		
(株)金銀箔工芸さくだ	〒920-0831 金沢市東山1-3-27 ☎076-251-6777	http://www.success21.com/goldleaf/ E-mail:goldleaf@violin.ocn.ne.jp			㉟㊱
金箔工芸 田じま	〒920-0855 金沢市武蔵町11-1・2F ☎076-263-0221	http://www.tajima-kinpaku.co.jp/			⑬⑭
(株)箔一本店 箔巧館	〒921-8061 金沢市森戸2-1-1 ☎076-240-0891	http://www.hakuichi.co.jp/ E-mail:info@hakuichi.co.jp	9:00～18:00	年中無休 (1月1日は休館)	㉟㊱㊲㊳
箔座 本店	〒920-0843 金沢市森山1-30-4 ☎076-251-8941	http://www.hakuza.co.jp/			

金沢漆器					
赤地漆器店	〒920-0805 金沢市小金町12-2 ☎076-252-8939				
(株)石田漆器店	〒920-0981 金沢市片町1-7-21 ☎076-261-2364	http://www3.nsknet.or.jp/~ishida/ E-mail ishida@po3.nsknet.or.jp		水曜日	㉟㊱
(株)和幸	〒921-8163 金沢市横川7-43 ☎076-247-4455				
(株)能作	〒920-0962 金沢市広坂1-1-60 ☎076-263-8121	http://www.kanazawa.gr.jp/nosaku/ E-mail:nosaku@kanazawa.gr.jp	10:00～19:00	水曜日 (8月は無休)	㉟㊱

加賀繻					
小林刺繻舗	〒921-8015 金沢市東力1-130 ☎076-291-5150	http://www.kanazawa1.com/kobayashi/			
ぬいの今井	〒920-0967 金沢市菊川2-10-12 ☎076-231-7271	http://www.kanazawa1.com/imai/			
縫工房 まゆどり 蘭島	〒920-0831 金沢市東山1-26-7 ☎076-252-2177 (ひがし茶屋街)				⑲㉟㊱

希少伝統工芸					
金沢・クラフト広坂	〒920-0962 金沢市広坂1-2-24 ☎076-265-3320	http://www.hokuriku.ne.jp/hirosaka/ E-mail:hirosaka@blue.hokuriku.ne.jp	10:00～18:00	毎週水曜日 年末年始	④㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷

その他のお問い合わせ					
上坂 兼六園店	〒920-0936 金沢市兼六町2-15 ☎076-264-1511				⑧
大樋焼本家十代長左衛門窯 大樋美術館	〒920-0911 金沢市橋場町2-17 ☎076-221-2397	http://www.hokuriku.ne.jp/ohi/	開館時間 9:00～17:00	無休	⑩⑪
箔座 ひかり蔵	〒920-0831 金沢市東山1-13-18 ☎076-251-8930	http://www.hakuza.co.jp/	9:30～18:00	無休	㉟㊱

⑦ 練り込みカップ
…1名様

[提供／金沢九谷
振興協同組合]

南保健作。お茶だけ
でなく、ビールやソフト
ドリンクもおいしくいた
だけの多目的なカップ。
6,300円相当。



⑤ 大樋赤湯呑み…1名様

[提供／金沢九谷振興協同組合]

泉富美作。金沢の陶芸の一つを代表する
大樋焼の伝統で制作された湯呑み。手に
なじみやすい
形にしている。
6,300円相当。



⑥ 青瓷釉湯呑み…1名様

[提供／金沢九谷振興協同組合]

岡重利作。薄い青と釉薬の艶がほどよく調
和する口あたりのいい湯呑み。6,300円相当。



④ 加賀バス毛針…3名様 各1点

[提供／金沢・クラフト広坂]

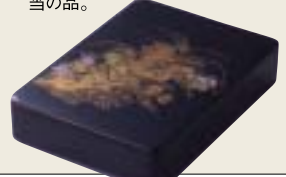
加賀藩では、武士の特権として川釣り奨励し、
鮎毛針は器用な武士によって作られていた。現
在は、野鳥の羽毛を使用、接合部には漆、金箔
など高度な技術を駆使し、本来の釣具としてだけ
でなく、その芸術的な美しさで、アクセサリとして
愛用されている。1,575円相当。



③ 秋草ミニ文庫…1名様

[提供／能作]

石川県立美術館に所蔵されている
五十嵐道南作の文化財「秋月風
景図硯」の意図を取り入れたもので、
金沢だけにしかない。2,940円相
当の品。



② 卓布…1名様

[提供／加賀染振興協会]

加賀友禅の先達・木村雨山のおしどり
から図案をとって、型をおこし、卓布にし
た。生地は絹で、紬であり、優美な雨山
の世界を再現している。10,500円相
当。



① ゴールドリーフ・タトゥー…1名様

[提供／箔一]

お洒落のアクセントになり
つつあるタトゥーを純金箔で
作ったもの。好きな
デザインを切りとって、
じかに肌に貼る。箔
の新しい可能性を感じ
させてくれる。
3枚1組まで
1名様に。



読者プレゼント

ステキなプレゼントをご用意しました。応募方法は、
①商品番号 ②住所 ③氏名 ④年齢 ⑤職業 ⑥
お持ちの方はメールアドレス ⑦本誌の感想をご
記入のうえ、ハガキもしくはEメールにてお申し込み
ください。当選の発表は発送をもって代えさせてい
たいただきます。締め切り2004年12月末日
【宛先】〒920-0962 金沢市広坂1-2-24
金沢工芸普及推進協会「ステキ」プレゼント係
E-mail:hirosaka@blue.hokuriku.ne.jp
➡www.hokuriku.ne.jp/kougei/suteki/

19

18



能瀬 萌春 作「水指」
64,000円

秋に美しく紅葉する蕨の一片をとらえ
作図し、形のいい水指しに表現しました。



岡 重利 作「米色瓷水指」
100,000円

米色瓷とガラスの調和をお楽しみくだ
さい。ガラス蓋制作は佐々木雅浩氏。



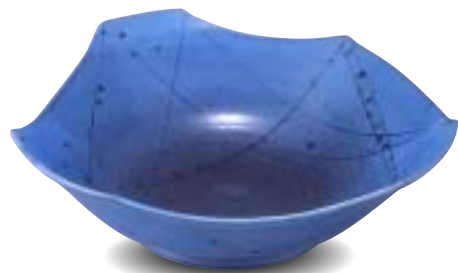
佐藤 剛 作「筒花生」
4,000円

ロクロを用いて成形し、呉須の刷毛目
により加飾をした掛花生。卓上に置
いて使うこともできます。



泉 富美 作「大樋赤彫三島茶碗」
50,000円

高麗茶碗の「彫三島」の手法を用い、
化粧掛け後、釘彫りで検垣文を施し
ました。薄鼠色は窯変です。



木越 勲 作「釉彩点線紋大鉢」
40,000円

私の得意技法の一つである、点線紋
を現代九谷で表現・制作しました。



南保 健 作「練り込み自然釉皿」
80,000円

皿に色のちがう粘土で模様を入れ、
登窯で焼き上げました。



長谷川 健一 作「金彩竹文茶盤」
100,000円

九谷の伝統的技法にこだわり、竹林
をモチーフにして描いた茶器です。



長谷川 壺人 作「赤絵鉢」
100,000円

貴船菊を単純明快に模様化。九谷
の伝統的雰囲気を保つように心が
けた作品です。

金沢九谷振興協同組合

〒920-0855 金沢市武蔵町12-11 TEL・FAX 076-263-9668

金沢伝統工芸マップ

